

主要産地における平成28年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第3報（10月31日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成28年11月1日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考		
	予想収穫量 (28年10月15日 現在)①	前年産 (27年10月15 日現在)②	前年産 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較 (①-③)	自主的取組参 考値との比較 (①-④)	作況指数 (28年10月15日 現在)	前年産 (27年10月15日 現在)との比較	28年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (28年9月末現在)	27年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (27年9月末現在)	生産数量目標		平成28年産 自主的取組 参考値 ④
										平成28年産 ③	前年産 との比較	
全国	7,498,000	7,444,000	▲ 54,000	68,000	148,000	103	3	83.9	81.2	7,430,000	▲ 80,000	7,350,000
北海道	545,500	559,600	▲ 14,100	4,000	9,831	102	▲ 2	89.1	94.4	541,500	▲ 5,830	535,669
青森	222,300	229,800	▲ 7,500	▲ 17,577	▲ 14,994	104	▲ 1	93.2	93.9	239,877	▲ 2,583	237,294
岩手	254,300	269,400	▲ 15,100	▲ 14,021	▲ 11,132	102	▲ 3	97.6	96.4	268,321	▲ 2,889	265,432
宮城	352,300	348,400	3,900	7,394	11,107	105	2	92.0	81.1	344,906	▲ 3,714	341,193
秋田	409,600	419,400	▲ 9,800	▲ 3,492	956	104	1	92.9	93.1	413,092	▲ 4,448	408,644
山形	345,300	354,300	▲ 9,000	4,470	8,140	103	0	95.7	96.4	340,830	▲ 3,670	337,160
福島	333,600	342,600	▲ 9,000	▲ 2,333	1,284	102	1	95.0	93.8	335,933	▲ 3,617	332,316
茨城	350,100	345,400	4,700	16,324	19,918	99	3	94.3	86.5	333,776	▲ 3,594	330,182
栃木	295,300	287,300	8,000	▲ 208	2,974	102	4	95.6	90.6	295,508	▲ 3,182	292,326
埼玉	154,100	152,200	1,900	4,441	6,053	101	4	76.8	32.8	149,659	▲ 1,611	148,047
千葉	295,900	297,500	▲ 1,600	52,036	54,661	102	1	91.7	89.1	243,864	▲ 2,626	241,239
新潟	589,700	539,600	50,100	73,963	79,516	108	11	86.6	82.2	515,737	▲ 5,553	510,184
富山	191,300	191,200	100	7,628	9,605	106	3	90.5	90.8	183,672	▲ 1,978	181,695
石川	123,900	123,200	700	1,587	2,904	104	3	89.5	86.7	122,313	▲ 1,317	120,996
福井	126,300	123,800	2,500	2,176	3,513	104	5	92.4	86.6	124,124	▲ 1,336	122,787
長野	197,800	194,500	3,300	5,867	7,933	101	4	99.0	98.5	191,933	▲ 2,067	189,867
滋賀	161,300	158,500	2,800	2,559	4,268	104	4	77.5	73.7	158,741	▲ 1,709	157,032
兵庫	177,400	178,900	▲ 1,500	▲ 1,118	804	100	1	68.3	68.8	178,518	▲ 1,922	176,596
岡山	156,200	151,600	4,600	▲ 661	1,028	102	4	78.7	73.4	156,861	▲ 1,689	155,172
広島	124,300	121,700	2,600	▲ 4,285	▲ 2,901	102	6	85.7	85.9	128,585	▲ 1,385	127,201
山口	101,400	100,700	700	▲ 6,201	▲ 5,043	102	5	76.8	76.7	107,601	▲ 1,159	106,443
愛媛	72,100	71,200	900	▲ 1,033	▲ 245	102	4	52.5	42.0	73,133	▲ 787	72,345
高知	53,100	52,800	300	3,563	4,097	100	4	20.5	17.5	49,537	▲ 533	49,003
福岡	177,400	172,300	5,100	▲ 3,126	▲ 1,182	100	5	12.2	17.8	180,526	▲ 1,944	178,582
熊本	171,000	171,500	▲ 500	▲ 16,293	▲ 14,277	102	5	40.1	35.4	187,293	▲ 2,017	185,277
宮崎	77,200	74,700	2,500	▲ 15,403	▲ 14,406	100	7	58.2	64.5	92,603	▲ 997	91,606
鹿児島	97,600	95,700	1,900	▲ 12,287	▲ 11,104	100	5	29.6	44.5	109,887	▲ 1,183	108,704

注：更新箇所について、前報より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在、全もみ数は、6月上旬から中旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7月には天候が回復したことから「平年並」となった。登熟は、8月下旬から9月上旬にかけての日照不足等の影響でやや遅延となったものの、8月上旬から中旬にかけて概ね高温に経過したことから「やや良」が見込まれる。なお、登熟期の台風通過による影響は限定的であった。（北海道農政事務所 10月28日付） （全道）収穫作業はやや遅れて終了した（遅4）。白米熟粒が平年よりやや多く見られる。（北海道農政部 10月15日現在） （空知）収穫作業は終了（10月4日、遅3日）。収量は平年並の見込み。（空知総合振興局 10月15日現在） （石狩）降雨により収穫作業が遅れた（遅8日）。（石狩総合振興局 10月15日現在） （後志）平年より1日遅く収穫終了（10月2日）となった。（後志総合振興局 10月15日現在） （胆振）収穫作業は終了（遅7日）。（胆振総合振興局 10月15日現在） （日高）収穫作業は平年よりやや遅れて終了した（遅3日）。（日高総合振興局 10月15日現在） （渡島）収穫作業は概ね平年並で終了（10月8日、遅2日）。（渡島総合振興局 10月15日現在） （檜山）収穫作業は平年よりやや遅れて終了した（遅3日）。（檜山振興局 10月15日現在） （上川）収穫作業は平年よりも遅れて終了した（10月5日、遅5日）。（上川総合振興局 10月15日現在） （留萌）収穫作業は平年並に終了した（10月2日、早1日）。（留萌振興局 10月15日現在） （オホーツク）収穫作業は遅れて終了した（10月6日、遅8日）。（オホーツク総合振興局 10月15日現在）
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が「平年並」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟が「やや良」と見込まれることから、604kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） ・10月20日現在の稲刈進捗は、県全体で100%となった。県全体の稲刈終わりは10月14日で、平年並だった。（青森県「攻めの農林水産業」推進本部 10月21日付）
岩手	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が平年に比べ「やや少ない」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟が「やや良」と見込まれることから、540kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） ・10月14日現在、県全体の水稲刈取割合は82%（平年同期93%）であり、水稲の刈取は平年よりも遅れている。東部は刈取終期を迎えているが、北上川流域および北部はまだ終期に達していない。地帯別には、北上川流が79%、北上川下流が83%、東部が91%、北部が79%である。なお、主食用米の刈取は終期を迎えつつある。（岩手県 10月14日付）
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が「やや多い」となり、登熟は、全もみ数がやや多かったものの、出穂期の気温・日照時間が平年を上回って経過し、9月中旬以降も気温が平年を上回ったことにより「平年並」と見込まれることから、554kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） ・10月17日現在における県内の水稲の刈取面積は62,718haであり、県全体の97%で刈り取りが終了している。県全体の刈取終期は10月15日であり、平年に比べて4日遅くなった。（宮城県 10月18日付）
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が「平年並」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟が「やや良」と見込まれることから、591kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） （鹿角）10月10日時点での刈り取り作業の進捗状況は67.6%（平年71.1%）となっている。週末の降雨によって遅れ気味となっている。（10月14日付） （山本）10月10日現在の刈り取り作業の進捗状況は95.2%となり、平年より1日早く終期（95%）を迎えている。（10月14日付） （由利）10月20日現在における収穫作業の進捗率は99.5%となっています。（10月21日付） （仙北）10月10日現在の「あきたこまち」の刈り取り作業の進捗状況は96.1%で平年並の進捗となっており、終期を迎えている。（10月14日付） （雄勝）収穫作業の終期は10月13日で平年より2日遅くなっている。（10月21日付） <p>（秋田県農林政策課）</p>
山形	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が平年に比べ「やや多い」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟が「やや良」と見込まれることから608kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） ・品質は、1等米比率も高く、良好な品質となっている。ただし、カメムシ類による斑点米（部分着色）がやや多い。（オールやまがた米づくり日本一運動本部）10月12日付）
福島	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲10a当たり予想収量は、全もみ数が「平年並」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟が「やや良」と見込まれることから、10a当たり予想収量は555kgが見込まれる。（東北農政局 10月28日付） ・農業総合センター調査の成熟期は、本部（郡山）で平年より遅れたが、それ以外は平年並から早まった。県内の刈取作業は、降雨が続いたことから始期が平年より遅れており、9月30日現在の進捗率は11%で昨年同期（18%）に比べ遅れている。（福島県 10月5日付）

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
茨城	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数がやや少なく、1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>平年並</u>」となった。 ・登熟は、8月中旬以降の日照不足や降雨の影響により抑制されたことから「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 ・県の10a当たり予想収量は521kgで、前年産に比べ16kgの増加が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は99（10a当たり予想収量509kg）が見込まれ、作柄表示地別では、北部で99（同505kg）、鹿行で100（同512kg）、南部で98（同511kg）及び西部で98（同511kg）が見込まれる。 <p>（関東農政局 10月28日付）</p> <p>（水戸市、10月25日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月2日移植のあまたこまちの対平年収量比は96%であった。平年と比較して、稈長は短く、穂長は並であった。穂数は少なく、一穂粒数は並で、m²当たり粒数は少なかった。千粒重はやや重く、登熟歩合はやや高く、精玄米率は平年比96%とやや少なかった。整粒歩合は平年より3.4%高かった。 ・5月2日移植のコンヒカリの対平年収量比は97%であった。平年と比較して、稈長は短く、穂長は長かった。穂数は少なく、一穂粒数はやや多く、m²当たり粒数は少なかった。千粒重はやや重く、登熟歩合はやや高く、精玄米率は平年比97%とやや少なかった。整粒歩合は平年より1.4%高かった。 ・5月10日移植のコンヒカリの対平年収量比は96%であった。平年と比較して、稈長、穂長ともに並であった。穂数は並で、一穂粒数は多く、m²当たり粒数は平年より多かった。千粒重はやや軽く、登熟歩合はやや低く、精玄米率は並であった。乳白粒、その他未熟粒が平年より多く、整粒歩合は平年より11.5%低かった。 <p>（茨城県農業総合センター農業研究所 10月27日付）</p>
栃木	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数及び1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、8月中旬以降の日照不足や降雨の影響により抑制されたことから「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 ・この結果、県の10a当たり予想収量は551kgで、前年産に比べ20kgの増加が見込まれる。 <p>なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は102（10a当たり予想収量541kg）が見込まれ、作柄表示地別では、北部で103（同565kg）、中部で101（同536kg）及び南部で103（同504kg）が見込まれる。</p> <p>（関東農政局 10月28日付）</p>
埼玉	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が平年並み、1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、8月中旬以降の日照不足や降雨の影響により抑制されたことから「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 ・この結果、埼玉県の10a当たり予想収量は494kgで、前年産に比べ14kgの増加が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は101（10a当たり予想収量482kg）が見込まれ、作柄表示地別では、東部で101（同491kg）及び西部で102（同462kg）が見込まれる。 <p>（関東農政局 10月28日付）</p>
千葉	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数がやや少なく、1種当たりもみ数が多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、一部台風等の影響が見られたが、おおむね天候に恵まれたことから「<u>平年並</u>」が見込まれる。 ・この結果、県の10a当たり予想収量は549kgで、前年産に比べ10kgの増加が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は102（10a当たり予想収量538kg）が見込まれ、作柄表示地別では、京葉で102（同517kg）、九十九里103（同558kg）及び南房総で103（同517kg）が見込まれる。 <p>（関東農政局 10月28日付）</p> <p>・「ふさおとめ」の充実度、整粒歩合、粒ぞろい及び粒形は概ねいいが、玄米白度がやや低い。白未熟粒の混入は全体的に少ない。活青米は適度に混入している。胴割粒、被害粒の混入は比較的少ないが、着色粒が散見される。</p> <p>（精米工 10月17日付）</p>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期までは概ね天候に恵まれ、全もみ数は「<u>やや多い</u>」となり、出穂期以降も好天に恵まれたことから、登熟は「<u>やや良</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は581kgとなり、前年産に比べ54kgの増加が見込まれる。 <p>（北陸農政局 10月28日付）</p>
富山	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期まで総じて気温が高く日照が多かったことから、全もみ数は「<u>多い</u>」となり、出穂期以降も平年に比べ気温及び日照時間が概ね上回って経過したため、登熟は「<u>平年並</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は566kgとなり、前年産に比べ7kgの増加が見込まれる。 <p>（北陸農政局 10月28日付）</p>
石川	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期までは概ね天候に恵まれたことから、全もみ数は「<u>平年並</u>」となり、出穂期以降も天候に恵まれたため、登熟は「<u>やや良</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は534kgで、前年産に比べ12kgの増加が見込まれる。 <p>（北陸農政局 10月28日付）</p>
福井	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「<u>平年並</u>」となり、出穂期以降も天候に恵まれたため、登熟が「<u>やや良</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は535kgとなり、前年産に比べ17kgの増加が見込まれる。 <p>（北陸農政局 10月28日付）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
長野	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、種数がやや少なく、1種当たりもみ数が平年並となったことから「やや少ない」となった。 ・登熟は、9月中下旬の日照不足であったものの、概ね天候に恵まれたことから「やや良」が見込まれる。 ・この結果、県の10a当たり予想収量は924kgで、前年産に比べ20kgの増加が見込まれる。なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は101(10a当たり予想収量615kg)が見込まれ、作柄表示地帯別では、東信で99(同618kg)、南信で100(同620kg)、中信で100(同629kg)及び北信で106(同589kg)が見込まれる。 (関東農政局 10月28日付)
滋賀	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、種数が平年並、1種当たりもみ数がやや多くなったことから「やや多い」となった。 ・登熟は、出穂期以降、高温・多照で推移していることから「やや良」が見込まれる。 ・これらのことから、10月15日現在における10a当たり予想収量は534kgとなり、前年産に比べ16kgの増加が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は104となる見込み。 ・作柄表示地帯別10a当たり予想収量は、湖南は543kgとなり、前年産に比べ17kgの増加、湖北は515kgとなり、同13kgの増加が見込まれる。 (近畿農政局 10月28日付)
兵庫	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、種数がやや少なく、1種当たりもみ数が平年並となったことから「やや少ない」となった。 ・登熟は、9月中旬から10月上旬が日照不足となったことから中晩生品種で充実の低下がみられるものの、全体では8月が高温・多照で経過したことから「やや良」が見込まれる。 ・これらのことから、10月15日現在における10a当たり予想収量は501kgとなり、前年産が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となる見込み。 ・作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、県南は500kgとなり、前年産に比べ2kgの減少、県北は497kgとなり、同8kgの減少、淡路は517kgとなり、同24kgの増加が見込まれる。 ・被害は、山間部を中心に獣害等の発生がみられる。 (近畿農政局 10月28日付)
岡山	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、梅雨期の日照不足の影響から中北部では「少ない」、南部では「やや少ない」となったため、県全体では「やや少ない」となった。 ・1種当たりもみ数は幼穂形成期の天候に恵まれたことから、地帯別・県全体ともに「やや多い」となった。このため、全もみ数は中北部では「少ない」、南部では「平年並」となり、県全体では「やや少ない」となった。 ・登熟は、中北部では、8月中旬以降が好天で推移し、中生種で9月以降の日照不足の影響を受けたものの、全もみ数が少ないことによる補償作用もあり「良」となった。また、南部では9月以降の日照不足の影響があったものの、10月に入って天候が回復したことから「平年並」が見込まれ、県全体では「やや良」が見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は535kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ30kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が543kg(前年産に比べ31kg増加)、中北部が517kg(同22kg増加)と見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅(中国地域は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102(やや良)で、作柄表示地帯別にみると南部が102(やや良)、中北部が101(平年並)と見込まれる。 (中国四国農政局 10月28日付)
広島	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、6月が多雨・日照不足で推移したため、南部では「やや少ない」、北部では「少ない」となった。この結果、県全体の種数は「少ない」となった。 ・1種当たりもみ数は、7月上旬から8月上旬が高温・多照で推移したことに加え、種数が少ないことによる補償作用が生じたことから、南部は「多い」、北部は「やや多い」となった。この結果、県全体の1種当たりもみ数は「やや多い」となった。 ・これらのことから、全もみ数は、南部では「やや多い」、北部では「やや少ない」となった。この結果、県全体の全もみ数は「平年並」となった。 ・登熟は、早生品種の構成比の高い北部では、8月に晴れの日が多く、日照時間及び気温日較差が平年を上回ったため、「良」と見込まれる。一方、中生品種の構成比の高い南部では、9月が日照不足で粒の充実が「やや不良」と見込まれるものの、8月中・下旬が高温・多照の好条件下にあったため、稔実が「平年並」と見込まれることから、登熟は「平年並」と見込まれる。この結果、県全体の登熟は、「やや良」と見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は531kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ24kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が534kg(前年産に比べ26kg増加)、北部が530kg(同23kg増加)と見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅(中国地域は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102(やや良)で、作柄表示地帯別にみても、南部、北部ともに102(やや良)と見込まれる。 (中国四国農政局 10月28日付)
山口	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、6月の天候不順により分けつが抑制され「やや少ない」となった。一方、1種当たりもみ数は、種数がやや少なくなったことによる補償作用や、中生種・晩生種の幼穂形成期が天候に恵まれたことから「やや多い」となり、全もみ数は「平年並」となった。 ・登熟は、早生種では、7月下旬から8月中旬が天候に恵まれ日照時間が平年に比べ多く推移したことから良好で、中生種・晩生種では、9月以降の日照不足により登熟が抑制されたものの、全体では「やや良」と見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は512kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ21kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東部が490kg(前年産に比べ17kg増加)、西部が521kg(同24kg増加)、長北が506kg(同14kg増加)と見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅(中国地域は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102(やや良)で、作柄表示地帯別にみると東部と西部が102(やや良)、長北が101(平年並み)と見込まれる。 (中国四国農政局 10月28日付)

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
愛 媛	<p><10月15日現在の作柄概況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、地帯別にはばらつきがあったが、県全体では「<u>平年並</u>」となった。また、1種当たりもみ数も同様に地帯別のばらつきはあったものの、幼穂形成期が好天であったため、県全体では「<u>やや多い</u>」となった。この結果、全もみ数は各地帯別及び県全体ともに「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、9月中旬から10月中旬にかけて多雨寡照であった上に、気温日較差も小さかったことから県下全般的に登熟が阻害された。さらに東予では高温多雨で推移したことから広域で紋枯病が発生し、被害程度の高いほ場では、株元の腐敗により倒伏し、一部では穂発芽するほ場も見られた。このことから「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 <p>以上のことから、愛媛県の10a当たり予想収量は508kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ20kgの増加が見込まれる。</p> <p>作柄表示地帯別にみると、東予は497kg（前年産に比べ+16kg）、中予は545kg（同+17kg）、南予は488kg（同+27kg）が見込まれる。</p> <p>また、農家等が使用しているふるい目幅（四国地域は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102（やや良）で、うち東予は101（平年並み）、中予は102（やや良）、南予は103（やや良）が見込まれる。</p> <p>（中国四国農政局 10月28日付）</p>
高 知	<p><早期栽培の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、生育初期の高温により、生育期間が早く平年に比べ分けつ期が短かったことから、「<u>やや少ない</u>」となった。 一方、1種当たりもみ数は、種数が少ないことから補償作用が働き「<u>やや多い</u>」となり、総じて全もみ数は「<u>やや少ない</u>」となった。 ・登熟は、7月以降高温・多照で推移し、粒の充実が順調であったことから、「<u>やや良</u>」となった。 <p>以上のことから、早期栽培の10a当たり予想収量は481kg、作況指数は101（平年並み）となった。</p> <p><普通栽培の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は、6月の日照不足の影響で分けつが抑制され、茎数がやや少ないことから、「<u>やや少ない</u>」。1種当たりもみ数は、7月下旬以降概ね高温・多照で推移したことと補償作用が働いたことにより、「<u>やや多い</u>」となり、総じて全もみ数は「<u>やや少ない</u>」となった。 ・登熟は、9月以降日照不足の影響でやや抑制されたものの、粒の肥大は順調に推移しており、「<u>やや良</u>」と見込まれる。 <p><県及び作柄表示地帯別></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の10a当たり予想収量は458kg、作況指数は100（平年並み）と見込まれる。作柄表示地帯別には、中東部が476 kgで100（平年並み）、西部が430 kgで100（平年並み）と見込まれる。 <p>（中国四国農政局 10月28日付）</p> <p>・「コシヒカリ」の玄米の形質は、地域により差はあるものの、全体的に光沢は良好である。中山間部のは、粒ぞろいがやや不揃いであり、粒形もやや細く、小がりである。63.4%が2等で、落等理由としては心白・腹白の発現や充実不足である。出回り初期は、青未熟粒の混入がやや多かったが、8月下旬以降は、青未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入がやや多い。その他未熟粒の混入の程度は地域による差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的少ない。胴割粒については、地域によりバラツキがある。着色粒は平均0.1%の混入で全体的に散見される程度である。（精米工 9月29日付）</p>
福 岡	<p><福岡地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数が「<u>やや少ない</u>」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」となったが、全もみ数は「<u>やや少ない</u>」となった。 ・登熟は、早生種の麥つくし等で出穂以降、高温多照に経過したものの、中生種のヒノヒカリで出穂以降、日照不足で推移していることから、「<u>平年並み</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並みの474kg（作況指数99）が見込まれる。 <p><北東部地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数が「<u>やや少ない</u>」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」となったことから、全もみ数は「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、早生種の麥つくしで出穂以降、高温多照に経過したことから、「<u>やや良</u>」が見込まれる。 <p>このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る499kg（同104）が見込まれる。</p> <p><筑後地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数が「<u>やや多い</u>」となり、1種当たりもみ数が「<u>平年並み</u>」となったことから、全もみ数「<u>やや多い</u>」となりました。 ・登熟は、ヒノヒカリの出穂以降、曇雨天日が多く、日照不足で推移していることから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 <p>このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る512kg（同98）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の10a当たり予想収量は平年並みの501kg（同100）が見込まれる。</p> <p>（九州農政局 10月28日付）</p>
熊 本	<p><県北地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数が「<u>やや多い</u>」となり、その相反作用で1種当たりもみ数が「<u>やや少ない</u>」となったことから、全もみ数は「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、病虫害の発生は平年より少なくなっているものの、出穂以降、やや日照不足で推移していることから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 <p>このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る541kg（作況指数102）が見込まれる。</p> <p><阿蘇地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数及び1種当たりもみ数が「<u>平年並み</u>」となったことから、全もみ数は「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、5月早播えのコンヒカリについては、出穂以降、高温多照に経過し、その他の品種については、出穂以降、やや日照不足で推移しているものの、病虫害の発生が平年より少なくなっていることから、「<u>やや良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る522kg（同104）が見込まれる。 <p><県南地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は「<u>平年並み</u>」となったが、1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから、全もみ数「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、1種当たりもみ数が多いことによる相反作用と、出穂以降、やや日照不足で推移していることから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 <p><天草地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数は「<u>平年並み</u>」となり、1種当たりもみ数は「<u>やや少ない</u>」となったことから、全もみ数は「<u>やや少ない</u>」となった。 ・登熟は、早期栽培では登熟期後半が好天に恵まれたものの、普通栽培では出穂期以降やや日照不足で推移していることから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 <p>このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る424kg（同97）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、熊本県の10a当たり予想収量は平年を上回る521kg（同103）が見込まれる。</p> <p>（九州農政局 10月30日付）</p>

	収量構成要素、作柄及び品質等の概況
宮 崎	<p>＜早期栽培水稲の10月15日現在の作柄概況＞</p> <p>・作柄概況</p> <p>1種当たりもみ数は「<u>平年並み</u>」、穂数が「<u>少ない</u>」となったことから、<u>全もみ数は平年に比べ「少ない」となった。</u> <u>登熟は、幼穂形成期から出穂期にあたる5月下旬から6月下旬にかけては日照時間が平年を下回ったが、7月上旬以降の日照時間が平年並みないしやや上回って経過したことや、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「やや良」となった。</u> <u>このことから、10a当たり収量は平年を下回る461kg(作況指数97)となった。</u></p> <p>＜普通栽培水稲の10月15日現在の作柄概況＞</p> <p>・作柄概況</p> <p>(広域沿海地帯)</p> <p>穂数及び1種当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」となったことから、<u>全もみ数は「多い」となった。</u> <u>登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照であったものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、全もみ数が多いことから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る492kg(同104)が見込まれる。</u></p> <p>(広域霧島地帯)</p> <p>穂数は「<u>やや少ない</u>」となったが、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから、<u>全もみ数は「やや多い」となった。</u> <u>登熟は、9月以降日照時間が平年を下回って推移しているもの、病虫害の発生が平年に比べやや少ないことから、「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る543kg(同102)が見込まれる。</u></p> <p>(西北山間地帯)</p> <p>穂数は「<u>少ない</u>」となったが、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから、<u>全もみ数は「やや多い」となった。</u> <u>登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照で経過したものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、1種当たりもみ数が多いことから、「やや不良」が見込まれる。</u></p> <p>以上の結果、<u>県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は平年を上回る498kg(同102)が見込まれる。</u></p> <p>(九州農政局 10月30日付)</p> <p>・「コシヒカリ」の玄米の形質は、光沢・粒形は平年並であるが、早場米特有の早刈りと思われるものもあり、収穫日・生産者によるバラツキが感じられる。また、出穂期以降も天候に恵まれたため、全体的に白未熟粒及び青未熟粒の混入は少ないが、水不足気味だったためか、死米の混入は青・白ともに平年よりやや多い。その他未熟粒の混入は、全体的には平年並だが、地域による差が見られる。被害粒・着色粒の混入は少ない。胴割粒の混入はやや多いものがあり、これも死米と同様の影響によるものと思われる。 (精米工 9月9日付)</p>
鹿 児 島	<p>＜早期栽培水稲の10月15日現在の作柄概況＞</p> <p>・作柄概況</p> <p>全もみ数は、<u>田植期の違いにより地帯間で差がみられるものの、県平均では穂数及び種当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「平年並み」となった。</u> <u>登熟は、登熟期前半までの日照不足及び風雨や登熟後半の高温、また、一部地帯でのいもち病等の拡大も影響したため「やや不良」となった。このことから、県の早期栽培水稲の10a当たり収量は平年を下回る429kg(作況指数96)となった。</u></p> <p>＜普通栽培水稲の10月15日現在の作柄概況＞</p> <p>・作柄概況</p> <p>(薩摩半島地帯)</p> <p>全もみ数は、<u>穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数も「多い」となったことから、「多い」となった。</u> <u>登熟は、9月以降、台風や秋雨前線の影響で日照時間が平年を下回って推移したことでも全もみ数が多いことによる相反作用が助長され、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る489kg(同103)が見込まれる。</u></p> <p>(出水薩摩地帯)</p> <p>全もみ数は、<u>穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「やや多い」となった。</u> <u>登熟は、9月以降、台風や秋雨前線の影響で日照時間が平年を下回って経過したことに加え、いもち病の進展やトビイロウンカによる埋枯れが拡大していることから「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並の504kg(同100)が見込まれる。</u></p> <p>(伊佐始良地帯)</p> <p>全もみ数は、<u>穂数が「平年並み」となり、1種当たりもみ数が「多い」となったことから、「多い」となった。</u> <u>登熟は、9月以降、台風や秋雨前線の影響で日照時間が平年を下回って経過したことに加え、いもち病の進展やトビイロウンカによる埋枯れが拡大していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年並の511kg(同101)が見込まれる。</u></p> <p>(大隅半島地帯)</p> <p>全もみ数は、<u>穂数が「少ない」となり、1種当たりもみ数が「やや多い」となったことから、「やや少ない」となった。</u> <u>登熟は、9月以降、台風や秋雨前線の影響で日照時間が平年を下回って経過したことに加え、台風による倒伏等も影響したものの、全もみ数がやや少ないことによる補償作用から「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る470kg(同98)が見込まれる。</u></p> <p>以上の結果、<u>県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は平年並みの498kg(同101)が見込まれる。</u></p> <p>(九州農政局 10月28日付)</p>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。
注2：農政局が公表している資料の「前年度比」は、確定値との比較となっている。
注3：(精米工)とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル(玄米)を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。
注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成28年産水稻の10月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局)、
平成27年産水稻の10月15日現在における作柄概況(農林水産省)、
平成28年産米の農産物検査結果(速報値/平成28年9月30日現在)(農林水産省)、
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年9月30日現在)(農林水産省)、
平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
玄米品質概況(平成28年産)(9/9、9/29、10/17)(一般社団法人日本精米工業会)

農作物の生育状況 9月15日現在(北海道 10月20日)、農作物生育状況 9月15日現在(北海道空知総合振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道石狩振興局 10月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道後志総合振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道胆振総合振興局 10月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道日高振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道渡島総合振興局 10月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道檜山振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道上川総合振興局 10月20日)、農作物生育状況調査の概要 9月15日現在(北海道留萌振興局 10月20日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 9月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 10月20日)、
稲刈進捗状況(10月20日現在)(青森県 10月21日)、
水稻の刈取状況(10月14日現在概況速報)について(岩手県 10月14日)、
平成28年産水稻の刈取状況について(10月17日現在)(宮城県農林水産部 10月18日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 10月21日)、
米づくり技術情報No.13(県産米ブランド推進課 10月12日)、
主要な農作物の生育情報 平成28年度第7号(福島県 10月5日)、
農研速報(水稻の生育状況)(10月25日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター農業研究所 10月27日)、